



Title	三阪佳弘教授 略歴・主要著作目録
Author(s)	
Citation	阪大法学. 2024, 74(3-4), p. 555-558
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/99489
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

三阪佳弘教授 略歴

- 1960（昭和35）年10月 大阪府大阪市に生まれる
- 1979（昭和54）年 3月 大阪星光学院高等学校卒業
- 同 年 4月 大阪大学法学部法学科入学
- 1983（昭和58）年 3月 大阪大学法学部卒業
- 同 年 4月 大阪大学大学院法学研究科博士前期課程公法学専攻入学
- 1985（昭和60）年 3月 大阪大学大学院法学研究科博士前期課程修了
- 同 年 4月 大阪大学大学院法学研究科博士後期課程公法学専攻入学
- 1989（平成元）年 3月 大阪大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得中退
- 同 年 4月 大阪大学法学部助手（1992年 3月まで）
- 1992（平成 4）年 4月 龍谷大学法学部助教授（2003年 3月まで）
- 1996（平成 8）年 9月 龍谷大学国外研究員（1997年 9月まで）：フランス国破毀院検
事局検事 Pierre LYON-CAEN の下での国外研究
- 2003（平成15）年 4月 龍谷大学法学部教授（2004年 3月まで）
- 2004（平成16）年 4月 大阪大学大学院高等司法研究科教授（2024年 3月まで）
- 同 年11月 日弁連法務研究財団法科大学院認証評価員（2010年11月まで）
- 2014（平成26）年 4月 大阪大学大学院高等司法研究科長、大阪大学教育研究評議員
（2016年 3月まで）
- 2015（平成27）年 3月 博士（法学）（大阪大学）取得
- 2016（平成28）年 3月 大阪府労働委員会第43・44・45期公益委員（2022年 2月まで）
- 同 年 6月 大阪大学総長特命補佐（2018年 3月まで）
- 同 年 8月 大阪市立大学大学院法学研究科法曹養成専攻・外部評価委員
（2017年 3月まで）
- 同 年 9月 大阪府公文書館運営懇談会委員（2020年 8月まで）
- 2017（平成29）年 8月 大阪大学適塾記念センター長（2023年 3月まで）
- 同 年10月 日本学術会議連携会員（2023年 9月まで）
- 2018（平成30）年 5月 法制史学会理事（2020年 4月まで）
- 2022（令和 4）年 5月 大阪府民共済生活協同組合非常勤理事（2024年 4月まで）
- 2024（令和 6）年 3月 大阪大学定年退職
- 同 年 4月 大阪大学名誉教授
広島修道大学法学部教授（現在に至る）

主要著作目録

I 著書

『日本近代法120講』（分担執筆）法律文化社	1992年
『日本近代法論』（分担執筆）法律文化社	1994年
『堺市制百年史』（分担執筆）堺市	1996年
『新・日本近代法論』（分担執筆）法律文化社	2002年
『日本近代法案内 ようこそ史料の森へ』（分担執筆）法律文化社	2003年
『日本近代法制史研究の現状と課題』（分担執筆）弘文堂	2003年
『日本の裁判所—司法行政の歴史的研究』（分担執筆）晃洋書房	2004年
『新現代民事訴訟法入門』（分担執筆）法律文化社	2005年
『近代日本における社会変動と法』（共著）晃洋書房	2006年
『里山学のすすめ＜文化としての自然＞再生に向けて』（分担執筆）昭和堂	2007年
『平和の探求 暴力のない世界をめざして』（分担執筆）解放出版社	2008年
『日本弁護士協会録事 明治編（別巻）』（共著）ゆまに書房	2008年
『日本現代法史論——近代から現代へ』（分担執筆）法律文化社	2010年
『講座明治維新 5 立憲制と帝国への道』（分担執筆）有志舎	2012年
『近代日本の司法省と裁判官——19世紀日仏比較の視点から』（単著）大阪大学出版会	2014年
『社会変革と社会科学——時代と対峙する思想と実践』（分担執筆）昭和堂	2017年
『日本型法治主義を超えて』（分担執筆）大阪大学出版会	2018年
『「前段の司法」とその担い手をめぐる比較法史研究』（編著）大阪大学出版会	2019年
『裁判と自治の法社会史』（分担執筆）晃洋書房	2020年
『アーカイブズとアーキビスト——記録を守り伝える担い手たち』（分担執筆）大阪大学出版会	2021年
『民主主義の深化と真価——思想・実践・法』（分担執筆）文理閣	2024年
『近代日本地方自治立法資料集成 2 [明治中期編]』（共編）弘文堂	1994年
『近代日本地方自治立法資料集成 3 [明治後期編]』（共編）弘文堂	1995年
『近代日本地方自治立法資料集成 4 [大正期編]』（共編）弘文堂	1996年
『近代日本地方自治立法資料集成 5 [昭和戦前期編]』（共編）弘文堂	1998年
『日本弁護士協会録事 明治篇（全31巻）』（共同監修）ゆまに書房	2004・06・08年

『新版 角川日本史辞典』（項目執筆）角川書店	1996年
『明治時代史大辞典』第1巻（項目執筆）吉川弘文館	2011年
『明治時代史大辞典』第2巻（項目執筆）吉川弘文館	2012年
『明治時代史大辞典』第3巻（項目執筆）吉川弘文館	2013年

II 論説

「明治前期における行政事件取扱制度の一考察——明治10（1877）年起草行政処分願訴規則案を題材に」	『阪大法学』139号	1986年
「明治9・10年の裁判所機構改革」	『法制史研究』38号	1989年
「明治30年代初頭における裁判所・裁判官統制強化論の法史的意義」	『阪大法学』40巻1号	1990年
「資料・治安維持法違反事件被告三田村四郎予審訊問調書（3）——治安維持法事件における予審の諸問題1」（共著）	『阪大法学』40巻2号	1990年
「資料・治安維持法違反事件被告三田村四郎予審訊問調書（4）——治安維持法事件における予審の諸問題2」（共著）	『阪大法学』41巻1号	1991年
「資料・治安維持法違反事件被告三田村四郎予審訊問調書（5・完）——治安維持法事件における予審の諸問題3」（共著）	『阪大法学』41巻4号	1992年
「昭和初期の大審院長権限拡大論について——近代日本における司法官僚制と裁判官」	『阪大法学』42巻2・3号	1992年
「ポストモダンか近代法の再生か？」（共著）	『法の科学』22号	1994年
「近代日本の司法省と裁判官（1）」	『龍谷法学』29巻1号	1996年
「フランス第三共和政初頭における司法改革（1）——1883年8月30日司法組織改革法の成立と司法官追放」	『龍谷法学』33巻2号	2000年
「フランス第三共和政初頭における司法改革（2）——1883年8月30日司法組織改革法の成立と司法官追放」	『龍谷法学』34巻1号	2001年
「フランス」（共著）『ヨーロッパの司法統計Ⅰ（フランス・イギリス）』	『東京大学社会科学研究所リサーチシリーズ』38号	2010年

「近代日本の地域社会と弁護士——1900年代の滋賀県域を題材として」	『法と政治』 62巻 1 号	2011年
「明治末・大正期京滋地域における弁護士と非弁護士——続・近代日本の地域社会と弁護士」	『阪大法学』 63巻 2 号	2013年
「明治前期民事判決原本にあらわれた代人——1877—90年の京滋阪地域の代人の事例」	『阪大法学』 63巻 3・4 号	2013年
「日本における『法学部』の歴史的展開」	『法の科学』 47号	2016年
Ⅲ 資料紹介、書評		
「(資料紹介)「丹後田辺藩裁判資料(1)」(共著)」	『同志社法学』 194号	1986年
「(資料紹介)「丹後田辺藩裁判資料(5)」(共著)」	『同志社法学』 201号	1988年
「(書評)毛利敏彦『江藤新平—急進的改革者の悲劇—』	『法制史研究』 38号	1989年
「(書評)菊山正明「江藤新平の司法改革構想と司法省の創設」	『法制史研究』 39号	1990年
「(資料)治安維持法違反事件被告三田村四朗予審訊問調書(1)」(共編)	『阪大法学』 39巻 3・4 号	1990年
「(資料)治安維持法違反事件被告三田村四朗予審訊問調書(2)」(共編)	『阪大法学』 40巻 1 号	1990年
「(書評)矢野達雄・加藤高・居石正和・紺谷浩司・増田修「裁判所所蔵文書から見た戦前期司法の諸相」	『法制史研究』 62号	2013年
「(書評)Flaherty 著・浅古弘監訳『近代法の形成と実践——19世紀日本における在野法曹の世界』	『法制史研究』 70号	2021年
「(書評と紹介)大庭裕介著『司法省と近代国家の形成』	『日本歴史』 879号	2021年
「(資料)明治前期民事判決原本における代人の活動事例——京滋阪地域の事例」	『阪大法学』 71巻 5 号	2022年